

和歌の美

- 会場 松平家史料展示室
- 会期 平成22年7月7日(水)
～9月7日(火)
- 休館日 7月26日(月)、7月27日(火)、
8月30日(月)、8月31日(火)

越前松平家には、和歌に取材した作品が数々伝来しています。例えば、美しい歌集の写本や古歌に出典のある工芸品、また藩主やその家族らが自ら詠みしたためた短冊等があります。これらの作品からは、季節や自然、人の心のうつろいを表現した和歌という文化の重みが伝わってくるようです。和歌がつくる美のすがたをぜひご覧下さい。

I 古歌を学ぶ

公家^{くげ}の間で発展してきた和歌は文化の中心であり、古歌を学び和歌をたしなむことは、公家文化を手本とした大名にとっても必須の教養でした。また、先祖や著名な人物が書写した歌集は手習いの手本ともなり、その家の大切な調度として代々受け継がれていきました。



松平定信筆「古歌手鑑」

II 歌人を慕う

六歌仙^{ろっかせん}や三十六歌仙といった偉大な歌人達の作品は、書写や絵が描かれるなど、歌聖^{かせい}として和歌をたしなむ人々から慕われてきました。

III 歌にあそぶ

和歌は様々な伝統文化や芸術に大きな影響を与えてきました。絵画や工芸品にも、古典としての古歌を典拠としたとみられる作品が

数多くあります。それらは古歌の教養があつてこそ、絵画や工芸の意匠として愛で、伝えることができたものです。



玉川蒔絵菓子筆筒



松平吉邦讚 赤染衛門の図

IV 歌をよむ

和歌は懐紙・色紙・短冊などに認められますが、歌にも歌道^{うたのちみち}という伝統があり、歌学書によって書式や詠歌の題材などが厳しく決められていました。人々は、季節や心のうつろいをそれらのかたちの中で歌に詠み、伝えてきました。



定姫筆和歌の幅

和歌の美 展示資料一覧

| No. | 資料名 | 員数 | 所蔵 |
|------------------|------------------------------|----|------------|
| I 古歌を学ぶ | | | |
| 1 | 賀茂真淵筆「ともひのおもと云々」和歌の幅 | 一幅 | 福井市春嶽公記念文庫 |
| 2 | 松平定信筆 古歌手鑑 | 一帖 | 福井市春嶽公記念文庫 |
| 3 | 勅賜『古今和歌集』 | 一冊 | 越葵文庫 |
| 4 | 『續千載和歌集 卷第十四』 | 一卷 | 越葵文庫 |
| 5 | 九十賀和歌 | 一帖 | 福井市春嶽公記念文庫 |
| 6 | 松平吉邦筆「十二か月花鳥和歌」 | 一帖 | 越葵文庫 |
| II 歌人を慕う | | | |
| 7 | 浅姫筆 手習いの書「斎宮女御」古歌の幅 | 一幅 | 福井市春嶽公記念文庫 |
| 8 | 松平吉邦讃 赤染衛門の図 | 一幅 | 越葵文庫 |
| 9 | 徳川斉昭自画賛 柿本人麻呂の図 | 一幅 | 福井市春嶽公記念文庫 |
| III 歌にあそぶ | | | |
| 10 | 玉川蒔絵菓子箆笥 | 一具 | 福井市春嶽公記念文庫 |
| 11 | 古今かるた | 一式 | 越葵文庫 |
| 12 | 金梨子地和歌浦蒔絵文台・硯箱・料紙箱 | 一揃 | 福井市春嶽公記念文庫 |
| 13 | 金梨子地山水図蒔絵硯箱 | 一具 | 福井市春嶽公記念文庫 |
| 14 | 金糸和歌刺繍袱紗 | 二条 | 越葵文庫 |
| 15 | 蛇皮包鞆大小拵 | 一具 | 福井市春嶽公記念文庫 |
| IV 歌をよむ | | | |
| 16 | 松平春嶽筆 和歌題書付の幅 | 一幅 | 福井市春嶽公記念文庫 |
| 17 | 松平春嶽筆書状 松平茂昭宛（橘曙覧より歌題に関する書付） | 一通 | 越葵文庫 |
| 18 | 志幾嶋の朶 | 一帖 | 福井市春嶽公記念文庫 |
| 19 | 寛恭院筆歌集 | 四冊 | 福井市春嶽公記念文庫 |
| 20 | 定姫筆 和歌の幅 | 一幅 | 越葵文庫 |
| 21 | 松平春嶽筆 「とりよらふふじの高ねの云々」和歌の幅 | 一幅 | 福井市春嶽公記念文庫 |

※展示資料は変更になる場合があります。

次回の展示

〈企画展示室・松平家史料展示室〉

秋季特別展「福井城と城下町のすがた」

9月10日(金)～10月24日(日)

松平家史料展示室 展示解説シート No.52

平成22年7月7日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1

電話 (0776)21-0489 FAX(0776)21-1489

担当 高瀬裕美

印刷 藤田製本印刷株式会社

電話 (0776)36-1550 FAX(0776)36-6120